

辞書引き学習の進め方（１年「漢字辞典」）【修正版】

1 ねらい

- 漢字辞典を最大限に活用して、子ども達が自ら調べ・自ら学ぶ習慣と辞書を引くための能力を身に付けさせる。
- 漢字に慣れ親しみ、漢字を読んだり書いたりする力を養い高める。

2 学習の進め方

(1) 準備するもの

自分の辞書

- * 漢字辞典を身近な所に置く。
 - 調べたくなったらすぐに調べられるように、手が届く範囲に置く。
(辞書のケースに記名して辞書を立て、ロッカーの上に並べて置いておく。)
- #### 付箋
- * 最初は同じ物を100枚程度準備して指導。以降は、家庭にお願いする。

(2) 指導の手順

<第1段階> 「音訓索引」を知り、辞書の引き方と学習の進め方に慣れる。
読み方が分かっている漢字を「音訓索引」で引く。

《プリント「漢字辞典を引いてみよう」**1**》

- * 付箋を縦長にして、あらかじめ鉛筆で番号を書いておく。
 - * 漢字辞典及び記名の確認をする。
- ア [学習の目当て「漢字辞典を引いてみよう」を板書] 音読する。
- イ [プリント**1**を配付] プリントに記名する。
- ウ [「木」と「口」を板書] 2字の書き順を確認し、なぞり書きする。
- エ 漢字辞典のページをめくりながら、「木」と「口」を探す。(5～10分)
- オ 漢字を「音訓索引」を使って、速く探す方法を知る。
- (ア) 「木」の訓読み(ひらがな・送りがな)と音読み(カタカナ)を知る。
 - (イ) [「音訓さくいん」のカードを黒板に貼付] 漢字辞典で「音訓索引」のある場所を探して見つける。
 - (ウ) 「音訓索引」の「き」で「木」を探し、「木」の下にある数字を確認する。
 - (エ) 漢字辞典で数字のページを開いて、「木」を探し見つける。
 - (オ) 「音訓索引」の「モク」で「木」を探して見つけ、どちらでも同じ様に探せることを確認する。
 - (カ) 付箋の番号の下に漢字を書き、漢字の出ているページの上部に貼る。
(文字を隠さないように注意する。)
 - (キ) 「口」でも同様に行って、漢字辞典に付箋を貼る。
- カ 漢字の読みが分かっている時には、「音訓索引」を使って漢字辞典を引くと速く漢字を見つめることができることを確認する。
- キ プリントをノートに貼る。(以降も同様に実施)

「音訓索引」での引き方に慣れる。《プリント**2**》

「山、水、雨、目、虫」

ア〔学習の目当て「漢字辞典を引いてみよう」を黒板に貼付〕音読する。

イ〔プリント**2**を配付〕プリントに記名する。〔確認〕

ウ〔「山」を板書〕書き順を確認し、プリントの漢字をなぞる。

エ「山」の音訓読みを確認し、()に書く。

(「水」「雨」「目」「虫」も「山」と同様に実施し、音訓の読みまで書く。)

オ「音訓索引」を使って漢字辞典を引いたことを思い出す。

カ「音訓索引」を使って、5つの漢字を漢字辞典で引く。

キ 全部引き終わった児童には、他の漢字も引くように言葉をかける。

漢字を見つけたら、その都度、番号の下に漢字を書いた付箋を辞書に貼る。

<第2段階> 「総画索引」を使った引き方を知り、辞書の引き方に慣れる。

身の回りにある読み方の分からない漢字を「総画索引」で引く。《プリント**3**》

ア 身近な人の名前に使われている漢字(児童の未習のもの)を辞書で探す。

(ア)〔学習の目当て「漢字辞典を引いてみよう」を黒板に貼付〕音読する。

(イ)〔プリント**3**を配付〕プリントに記名する。〔確認〕

(ウ)〔「享」をゆっくり板書する〕書き順を確認し、プリントの「享」をなぞる。

(エ)〔「享」の読みを問いかける〕読み方が分からない漢字を調べる方法として、「総画索引」を使う方法があることを知る。

〔「総画さくいん」のカードを黒板に貼付〕

(オ)〔「享」の画数を問いかける〕「享」の画数が8画であることを確認し、プリントの に記入する。

(カ) 漢字辞典で「総画索引」の場所を探して見つける。

* 画数の少ない字から順に並んでいることを知る。

「総画索引」の8画のところ「享」を探して見つける。

(キ)「享」の下の数字を確認し、漢字辞典の数字のページを開く。

(ク) 開いたページで「享」を探して見つけ、付箋を貼る。

(ケ)「享」の読みを確認し、プリントに記入する。

(コ)「享」の近くで「亨」を探して見つけ、読み(「とおる」)を確認する。

「総画索引」を使った引き方に慣れる。

ア「火、金、土、日」を「総画索引」を使って引く。《プリント**4**》

(ア)〔学習の目当て「漢字辞典を引いてみよう」を黒板に貼付〕音読する。

(イ)〔プリント**4**を配付〕プリントに記名する。〔確認〕

(ウ)「総画索引」を使って漢字辞典を引いたことを確認する。

(エ)〔「火」を画数を確認しながら板書する〕プリントの「火」をなぞり、画数を に記入する。

(オ)「金、土、日」も同様にして、画数まで記入する。

(カ)「総画索引」を使って、5つの漢字を漢字辞典で引き、付箋を貼る。

(キ) 引いた確認として、それぞれの漢字の音訓読みをプリントに記入する。

イ 「左、右、耳、手」を「総画索引」を使って引く。《プリント**5**》

(ア) 〔学習の目当て「漢字辞典を引いてみよう」を黒板に貼付〕音読する。

(イ) 〔プリント**5**を配付〕プリントに記名する。〔確認〕

(ウ) 〔カードに書いた「左、右、耳、手」を黒板に貼付〕「総画索引」を使って漢字辞典を引くことを知る。

(エ) 「左、右、耳、手」の書き順と画数を確認してプリントの字をなぞり、画数を に記入する。

(オ) 「総画索引」を使って、4つの漢字を漢字辞典で引き、付箋を貼る。

(カ) 引いた確認として、それぞれの漢字の音訓読みをプリントに記入する。

ウ 担任の先生の名前の漢字を「総画索引」で引く。《プリント**6**》

「1組：長、谷、川、洋 2組：井、上、啓、子 3組：佐、藤、光、雄」

(ア) 〔学習の目当て「漢字辞典を引いてみよう」を黒板に貼付〕音読する。

(イ) 〔プリント**6**を配付〕プリントに記名する。〔確認〕

(ウ) 〔「担任の先生の氏名の中で使われている漢字を4文字程度順番をバラバラにして黒板に書く」〕「総画索引」を使って、示された漢字を辞典で引くことを知る。

(エ) 示された漢字のそれぞれの書き順と画数を確認した後、プリントの字をなぞり、 に画数を記入する。

(オ) 「総画索引」を使って、示された漢字を漢字辞典で引き付箋を貼る。

(カ) 引いた確認として、それぞれの漢字の音訓読みをプリントに記入する。

(キ) 調べた漢字を並べ替えて、担任の先生の氏名にする。

(足りない漢字は、補って完成させる。)

<第3段階> 「部首索引」で辞書を引く、辞書の引き方に慣れる。

身の回りにある読み方の分からない漢字を「部首索引」で引く。《プリント**7**》

ア 〔学習の目当て「漢字辞典を引いてみよう」を黒板に貼付〕音読する。

イ 〔プリント**7**を配付〕プリントに記名する。〔確認〕

ウ 〔カードに書いた「校」と「村」を黒板に貼付〕示された漢字を漢字辞典で引くことを知る。

エ 示された漢字のそれぞれの書き順を確認した後、プリントの字をなぞる。

オ 2つの漢字を見比べて形が同じ部分を見つけて赤丸で囲む。

カ 元は「木」であることを確認して に記入する。

キ 形が同じ部分を「部首」と呼ぶこと、「部首索引」を使って漢字辞典を引くことができることを知る。〔「部首さくいん」のカードを黒板に貼付〕

ク 漢字辞典の「部首索引」の場所を探す。

〔画数の少ない順に並んでいることを知らせる。〕

ケ 〔「木」の画数を確認〕「部首索引」の4画の所で「木」を探して「き・きへん」と呼ぶことを知り、プリントに記入する。

コ 「き・きへん」の下の数字が辞典に載っているページであることを確認し、漢字辞典のページを開く。

- サ 開いたページよりも後に、「木」が付く漢字が載っていることを確認して、「校」と「村」を探す。(見つけたら付箋を貼る。)
- シ 「校」と「村」の音訓読みを確認し、プリントに記入する。

「部首索引」を使った引き方に慣れる。

- ア 「蚊、蜂」を「部首索引」を使って引く。《プリント**8**》
- (ア) [学習の目当て「漢字辞典を引いてみよう」を黒板に貼付]音読する。
- (イ) [プリント**8**を配付]プリントに記名する。〔確認〕
- (ウ) [「蚊」と「蜂」を書いたカードを黒板に貼付]「部首索引」を使って、2つの漢字を漢字辞典で引くことを知る。〔「部首さくいん」のカードを黒板に貼付〕
- (エ) 2つの漢字の書き順を確認した後、プリントの字をなぞる。
- (オ) 2つの漢字の同じ部分を見つけて、赤丸で囲む。
- (カ) 同じ部分が「虫」であることを確認してプリントに記入する。
- (キ) 「部首索引」で名前を調べ、「むし・むしへん」であることを確認し、プリントに記入する。
- (ク) 「虫」の下の数字を確認し、漢字辞典のページを開く。
- (ケ) 「虫」が付いた漢字の中から「蚊」と「蜂」を探して付箋を貼る。
- (コ) 2つの漢字の音訓読みを確認し、プリントに記入する。

- イ 「笑」「筋」「笛」を「部首索引」で引く。《プリント**9**》
- (ア) [学習の目当て「漢字辞典を引いてみよう」を黒板に貼付]音読する。
- (イ) [プリント**9**を配付]プリントに記名する。〔確認〕
- (ウ) [「笑」「筋」「笛」を書いたカードを黒板に貼付]「部首索引」を使って、3つの漢字を漢字辞典で引くことを知る。〔「部首さくいん」のカードを黒板に貼付〕
- (エ) 3つの漢字の書き順を確認した後、プリントの字をなぞる。
- (オ) 3つの漢字の同じ部分を見つけて、赤丸で囲む。
- (カ) 同じ部分が「竹」であることを確認してプリントに記入する。
- (キ) 「部首索引」で名前を調べ、「たけ・たけへん」であることを確認し、プリントに記入する。
- (ク) 「竹」の下の数字を確認し、漢字辞典のページを開く。
- (ケ) 「竹」が付いた漢字の中から「笑」「筋」「笛」を探して付箋を貼る。
- (コ) 3つの漢字の音訓読みを確認し、プリントに記入する。

< 第4段階 > 漢字に親しみ、辞書の引き方にいっそう慣れる。

自分や家族の名前に使われている漢字を3つの引き方のどれかで調べる。

《プリント「漢字辞典を引き慣れよう」**1**》

- ア [プリント**1**]を配付] プリントに記名する。〔確認〕
- イ 自分の氏名や家族の名前を、家でプリントに漢字で書いてもらう。
- ウ 書いてもらった漢字を、これまで学習した3つの引き方のどれかで引く。
番号と漢字を書いた付箋を、辞書に貼る。
(以降も、必ず実施。)

隣の子の名前に使われている漢字を3つの引き方のどれかで調べる。

《プ「漢字辞典を引き慣れよう」**2**》

- ア [プリント**2**]を配付] プリントに記名する。〔確認〕
- イ 隣の子の氏名をプリントに書いてもらう。
- ウ 書いてもらった漢字を、3つの辞書の引き方のどれかで引く。
- エ 隣の子の家族の名前をプリントに書いて貰う。()に読み方、 に漢字。
- オ 書いてもらった漢字を、3つの辞書の引き方のどれかで引く。

< 第5段階 > 部首や漢字、熟語に親しむ。

* クイズ形式でいろいろな問題を出し、部首や漢字、熟語に親しませていく。

部首の意味に関心を持つ。《プリント「部首を見つけよう」**1**》

- ア イラストと部首をいくつか示し、どのイラストがどの部首を表しているか想像する。
- イ 「部首索引」を使って、部首の名前や意味を調べる。

部首の意味に親しむ。《プ「部首を～」**2**》

- ア 部首と部首の意味を書いた文をいくつか示し、どの文がどの部首に合うかを考える。
- イ 「部首索引」を使って、部首の意味を調べ、確かめる。

漢字の中で使われている位置で、部首を仲間分けをする。《プ「部首を～」**3**》

- ア 漢字の中の「へん」「つくり」「かんむり・かしら」「あし」「たれ」「にょう」「かまえ」の位置を示した図とそれぞれの部首を持つ漢字を示したものを線でつなぐ。
- イ 示された漢字に使われている部首の名前を「部首索引」で調べる。

漢字の成り立ちを楽しんで調べたり、同じ部首の漢字を調べたりする。

- ア 「魚へん」の字を読んだり書いたりする。《プリント「漢字に親しもう」**1**》
- イ 「鳥」「木」の名前を表す漢字を漢字辞典で調べる。《プ「漢字に親～」**2**》
- イ 「比、休、光」「飛、長、集」の成り立ちを漢字辞典で調べる。

《プ「漢字に親～」**3**》

漢字辞典で言葉を集める。(熟語、四字熟語)

《プリント「漢字辞典で言葉を集めよう」》

ア 上の文字を示し、漢字二文字の言葉を集める。

イ 四字熟語の意味と四字熟語の一部を省いたもの示し、言葉を完成させる。

同じ部首でも形が変わって使われている漢字を示し、同じ部首の漢字を見つける。

《プリント「同じ部首の漢字を見つけよう」》

<第6段階> 学習の中で出てきた漢字の読みや意味、成り立ちや用例等を、辞書を引いて調べたり確かめたりする。

国語の学習の中で辞書を使って、漢字の読みや意味等を調べる場面や時間を取る。

他の教科の学習や日常生活の中等で、読みや意味等を調べたり確かめたりしたい漢字が出て来たら、辞書を使って調べるようにする。

<年度末に> 「辞書引き学習」を振り返り、これからも積極的に辞書を使っていこうという気持ちを高める。

自分の辞書の付箋を見、1年間の取り組みを振り返る。

付箋の数を書き込んだ賞状を作成し、1年間の取り組みを賞賛する。

(3) 留意事項

辞書に付箋を必ず貼らせる。

どれだけの言葉を、辞書で引いて調べたかがはっきり自分の目で確認できるよう、辞書で引いた言葉には忘れずに付箋を貼らせていく。

積極的に褒める。

付箋がどんどん貼られていくと、自分の取り組んできたことが目に見える成果として実感でき自信となる。付箋が増えてきたら、自分の取り組みが正しく評価されていることを実感させ、さらに努力していくように積極的に褒める。

時間を継続して取る。

始めは、国語の時間を使って指導。1時間の内の10～15分ぐらいの時間を使って継続的に行っていく。だんだん慣れてきたら、「短学活」や「朝学習」の時間に取り組みせたり、授業が早く終わった時の残りの時間を使ったりしていく。

自主学習として発展させていく。

更に使い慣れてきたら、国語の時間に限らずに、他の教科でもどんどん使っていくようにしていく。